

大学生サポーターが支援する 大学受験のためのグループ学習。 「答えを教えない」ことで達成感を得る

神奈川県立菅高等学校

神奈川県立菅高等学校には、大学進学希望者を対象にした各学年2クラスずつの特進クラスがある。同校では問題行動や中退者が多かった時期があり、9年前に学校改革に着手した。生活指導の徹底や、朝読書、職場体験、少人数クラスなどの導入。その流れで特進クラスも設置されたという。

あるとき、特進クラスの生徒から補習希望の声が上がった。自習スタイルで希望者向けに補習を始めると、生徒たちは大学進学のために勉強したいという意欲があっても、勉強の仕方を知らないということがわかってきた。また、教員に質問する

ことが苦手であることもわかった。そこで、近隣の大学生をボランティアで募集し、自分たちがやってきた勉強法を教えてもらうことにした。やがてそれは教員と大学生サポーターによる正式な授業に発展する。2010年度よりスタートした、1・2年生の特進クラスでの週に1回のSP（スペシャルプログラム）である。教科は国語、数学、英語。毎時間課題が提示され、生徒は4〜5人のグループで協力しあってそれを解く。大学生サポーターにはくれぐれも解答を教えないよう依頼し、煮詰まっているグループなどにはヒントを出してもらおう。うまくヒントを出してもらえて解け

ると、生徒は達成感を感じられる。

SPでは宿題も出す。生徒は最初は自力で考えた答え、次にインターネットや辞書を使って調べて解いた答え、最後に答え合わせしたもの、1週間のうちに3回宿題を提出。これはどのようにして家庭学習をするのかを教えるねらいもある。「授業で出される課題であれ、宿題であれ、最後は全員できるようにすることが大切。きちんと調べれば答えに到達できるということを実感してほしいのです」と前SP担当の山本美和先生は言う。

SPを通して、手取り足取り引っぱっていかなくても、実は生徒たちは力をもっていることもわかってきた。「自分の意見を発信できる生徒が増えました。グループ学習によって、自分はどこがわからないか探し、わからないと言えるようになったことが進歩です」とSP担当の西泰弘先生。SPの授業はどの先生にもオープンにしているため、見学し自身の教科でもグループ学習を取り入れてみる先生方も増えました。そして、以前はほとんどいなかった、一



前SP担当
山本美和先生



SP担当
西泰弘先生



SP担当
岡本直哉先生

School Data

1983年創立 / 普通科 / 生徒数980人
(男子533人・女子447人) / 進路状況
(2012年度実績) 大学35.3%・短大6.1%・
専門学校31.1%・就職11.2%・その他(浪人など)16.3%

実践のヒント

採用試験情報の提供など
大学生のメリットも考えています

Q ボランティアでも集まりますか？

最初はなかなか集まりませんでした。完全ボランティアで申し訳ないので、教員採用試験情報や研修についての情報を提供するなど、少しでも学生さんにメリットがあるように考えています。(岡本先生)

Q SPの教材はどうしているのですか？

外注して専用の教材を作ってもらっています。グループで頑張ればなんとか解けるといふ難易度をキープしたいのですが、教科によっては調整が難しく、今後の課題のひとつです。(西先生)



大学生サポーターは昨年度、15〜16人の登録があった。近隣の大学にチラシを貼らせてもらったり、教授を通して教員志望の学生に募集をかけたっている。

SPの授業に対する 生徒の感想

(1年)

- 初めはとまどったけど、だんだん慣れてくるとグループの人にわからないことを聞いたりグループ全員で相談してとても楽しく頭に入ってくる。
- 話し合いながらやる勉強ははかどるし楽しい。
- 難しい問題は解こうという気が起こらなかったけれど、周りがいるので、解いてやるというやる気を起こさせてくれた。
- 正直に言うと話しづらいメンバーとあたり、とてもつまらないときがあった

(2年)

- グループ学習なので、先生に聞きやすく楽しく学習できてよかったです。
- 協力してできて勉強がはかどる。
- 大学生とのふれあいが楽しかった。
- 教材がとても難しい。グループではなく、授業としてやったほうが理解できると思う。